

建仁元年八月 日

地頭 長谷部 在判

前大膳大夫中原朝臣 判

(地頭長谷部は、建久八季六月九日の條の兵衛尉と共に信連なるべきか。今西光寺に於いて既に原本を藏せず。)

元久二年

乙丑

紀元一八六五

六月五日。幕府、加賀郡井家莊地頭代官の自由の狼藉を停止せしむ。
【勸修寺家文書】

六三

下 加賀國井家莊地頭代官所

可草停止自由狼藉且致撫民計

從領家使下知事

五月廿八日。幕府、江沼郡額田莊の地頭職を停む。

【中院文書】

六一

下 加賀國額田庄官等

可草停止地頭職事

右地頭代官寄事於左右、寃庄官百姓、割取年貢内懈怠

公事之由、其訴出來。加之年來之間、不被補地頭云々。

仍可令停止地頭職之狀、所仰如件。以下。

元久二年五月廿八日

清原 判

前右京進中原 判

左衛門尉 平 判

【櫛原北代比古神社棟札】 願至郡

六四

三月。假掲

建永二年
承元元年

丁卯
十月廿五日
改元

紀元一八六七

(北條時政)
遠江守平 在判

大願主民部阿闍梨沮阮坊

櫛原北代比古神社六社大權現

長谷部兵庫允廣連

神主

承元元丁卯三月棟上同
御遷宮

大工鳳至院刑部允靜定

小工矢並住清原盛正

施主 長谷部兵庫允

右奉造立處者、金輪聖王天長地久、御願田滿、信連御息災延命所也。

願主和泉阿闍梨金剛佛子深智敬白

(この棟札は、承元元年三月鳳至郡櫛原北代比古神社の社殿上棟並に遷宮を行ひしことをいへり。然れども承元は十月廿五日の改元にして、こゝに三月を元年とするは怪しむべく、人名亦疑はしきものあり。曆應三年十月五日の條に掲ぐるものと共に假作なるべし。)

承元二年

戊辰

皇紀一八六八

十一月。權大僧都承信、大納言僧都に羽咋郡土田莊等の私領を讓渡す。

【曼殊院文書】 山城

六五

讓渡私領并山洛坂本房舍等事

合

能登國立田庄

件庄、御一期之後者、可讓與中納言禪師給。但女院御年貢以下課役繁多也。雖然御存生之間、三津濱定米五十石、毎年彼禪師衣服食等料、必可分給也。努力々々不可有御懈怠矣。

近江國寶石寺

(中略)

右件所領房舍等相傳之私領也。各相副本券等、可讓大納言僧都御房也。向後更不可有牢籠、仍爲後日立新券文、讓進之狀如件。